

## 【イタリア】メローニ新政権の成立

主任調査員 総合調査室 芦田 淳

\* 2022年10月、イタリアでは、中道右派連合による新政権が成立した。政権の構成と、注目された下院における新首相の基本方針演説の概要について紹介する。

### 1 新政権の構成

2022年10月22日、前月の上下両院選挙で第一党となった「イタリアの同胞」の党首メローニ（Giorgia Meloni）を首相とする新政権が発足した<sup>1</sup>。イタリアにおいて、女性が首相に就任するのは初めてのことである。首相を含む閣僚数は前政権期と同様に25名で、閣僚の所属政党は、イタリアの同胞が10名、選挙時に連合を組んだ「フォルツァ・イタリア（FI）」と「同盟」が5名ずつ、無所属が5名となっている（表参照）。無所属の者に関しては、内務大臣にローマ県長官等を歴任した内務官僚、保健大臣に核医学を専門とする大学教授<sup>2</sup>を充てるなど、重要閣僚に担当分野の専門家を任命している。ただし、イタリアの同胞が目指した経済及び財務大臣への専門家（欧州中央銀行専務理事等）の起用は、実現しなかった。

### 2 首相の基本方針演説

同月25日、イタリアの同胞がネオ・ファシズム政党の流れをくむ政党であること、FI及び同盟の党首が親ロシア的とされることなどから国内外の注目を浴びる中、下院で基本方針に関する演説が行われた<sup>3</sup>。同演説は、次のとおり、こうした懸念の払拭を意識しつつ、新政権の性格もにじみ出たものとなっている。①国際関係：イタリアが、ロシアの侵略に反対する勇敢なウクライナの人々への支援を始め、大西洋同盟における信頼できるパートナーであることを宣言した<sup>4</sup>。また、欧州諸機関において、イタリア政府が、（欧州統合の速度を緩めたり妨害したりするためではなく）危機や外的脅威に対応する力を高め、市民や企業により近接したアプローチを目指すよう、声を上げていく姿勢を示した<sup>5</sup>。②経済関係：エネルギー危機対応（家庭及び企業に対する支援、自然エネルギー利用の拡大等）や租税負担の軽減を掲げた<sup>6</sup>。加えて、債務の削減は、従来課されてきた見境のない緊縮財政などによるのではなく、経済的、持続的及

\* 本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2022年12月5日である。

<sup>1</sup> 選挙結果に関しては、芦田淳「【イタリア】上下両院選挙法と2022年選挙結果」『外国の立法』No.293-2, 2022.11, pp.14-15. <[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_12360276\\_po\\_02930207.pdf?contentNo=1](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_12360276_po_02930207.pdf?contentNo=1)> を参照。

<sup>2</sup> 保健大臣に任命されたスキッラーチ（Orazio Schillaci）は、2020年6月以降、新型コロナウイルス感染症の流行に際して保健省の重要な決定に関わった高等保健研究所の科学委員会の委員も務めた。“Chi è Orazio Schillaci, ministro della Salute del governo Meloni” *Corriere della Sera*, 21 ottobre 2022. <[https://www.corriere.it/politica/22\\_ottobre\\_21/orazio-schillaci-ministro-salute-governo-meloni-c5674872-5141-11ed-ae37-402d6a32bf5d.shtml?refresh\\_ce](https://www.corriere.it/politica/22_ottobre_21/orazio-schillaci-ministro-salute-governo-meloni-c5674872-5141-11ed-ae37-402d6a32bf5d.shtml?refresh_ce)>

<sup>3</sup> *Resoconto stenografico dell'Assemblea della Camera dei Deputati*, Seduta n.4, XIX Legislatura, 25 ottobre 2022, pp. 1-18. <<https://documenti.camera.it/leg19/resoconti/assemblea/html/sed0004/stenografico.pdf>> なお、上院では、下院における基本方針演説の記録を手交するにとどめ、演説を再度行ってはいない。*Resoconto stenografico dell'Assemblea del Senato della Repubblica*, Seduta n.3, XIX Legislatura, 25 ottobre 2022, p.7. <<https://www.senato.it/service/PDF/PDFS/erver/BGT/1361012.pdf>>

<sup>4</sup> *Resoconto stenografico dell'Assemblea della Camera dei Deputati, op.cit.*(3), p.5.

<sup>5</sup> *ibid.*, p.4.

<sup>6</sup> *ibid.*, pp.5-6, 10-11.

び構造的な成長によってのみ可能とした<sup>7</sup>。③政治・社会関係：政治的な不安定性を克服するために、「対話型民主主義」から「決定型民主主義」に移行する必要性や、大統領の権限強化に言及した<sup>8</sup>。後者に関しては、フランス型の半大統領制の検討から始めることを提案している。また、既存の自由、市民の権利や中絶を制限することは決してないとし、首相自身ファシズムを含む反民主主義体制に好意を持ったことがないと述べた<sup>9</sup>。このほか、同演説では、合法的な移民と不法移民を画然と区別し、後者を阻止することを言明している<sup>10</sup>。

表 メローニ政権閣僚一覧

役職	氏名	所属
首相	ジョルジャ・メローニ*	イタリアの同胞
副首相／外務及び国際協力担当大臣	アントニオ・タヤーニ	FI
副首相／社会資本及び輸送担当大臣	マッテオ・サルヴィーニ	同盟
内務大臣	マッテオ・ピアンテドージ	無所属
司法大臣	カルロ・ノルディオ	イタリアの同胞
防衛大臣	ガイド・クロゼット	イタリアの同胞
経済及び財務大臣	ジャンカルロ・ジョルジュエッティ	同盟
企業及びメイド・イン・イタリア担当大臣	アドルフォ・ウルソ	イタリアの同胞
農業、食糧主権及び林業担当大臣	フランチェスコ・ロロブリージダ	イタリアの同胞
環境及びエネルギー安全保障担当大臣	ジルベルト・ピケット・フラティン	FI
労働及び社会政策担当大臣	マリーナ・エルヴィーラ・カルデローネ*	無所属
教育及び成績担当大臣	ジュゼッペ・ヴァルディターラ	同盟
大学及び研究担当大臣	アンナ・マリア・ベルニーニ*	FI
文化大臣	ジェンナーロ・サンジュリアーノ	無所属
保健大臣	オラツィオ・スキッラーチ	無所属
観光大臣	ダニエーラ・ガルネロ・サンタンケ*	イタリアの同胞
議会関係担当大臣	ルカ・チリアーニ	イタリアの同胞
行政担当大臣	パオロ・ザングリッロ	FI
州問題及び自治担当大臣	ロベルト・カルデローリ	同盟
災害防護及び海洋政策担当大臣	セバステアノー・ムズメーチ	イタリアの同胞
欧州問題、南部、結束政策及びPNRR（再興及び回復のための国家計画）担当大臣	ラッファエーレ・フィット	イタリアの同胞
スポーツ及び若年者担当大臣	アンドレア・アボーディ	無所属
家族、出生率及び機会均等担当大臣	エウジェニア・マリア・ロッチェッラ*	イタリアの同胞
制度改革及び法令簡素化担当大臣	マリア・エリザベッタ・アルベルティ・カゼッラーティ*	FI
障害者担当大臣	アレッサンドラ・ロカテッリ*	同盟

(注) \* を付した7名は、女性閣僚である。また、役職名は、2022年11月11日緊急法律命令第173号「省の権限再編に関する緊急規定」<<https://www.gazzettaufficiale.it/eli/gu/2022/11/11/264/sg/pdf>> 等による変更後のものである。(出典) “Vicepresidenti, Ministri e Sottosegretari,” Governo Italiano: Presidenza del Consiglio dei Ministri website <<http://www.governo.it/it/ministri-e-sottosegretari>> 等を基に筆者作成。

<sup>7</sup> *ibid.*, p.7.

<sup>8</sup> *ibid.*, p.8. 次文の該当箇所も同じである。なお、演説中、直近20年間において、イタリアでは平均して2年ごとに新たな政権が誕生しており、そのことが様々な弊害をもたらしているとも述べている。

<sup>9</sup> *ibid.*, p.14.

<sup>10</sup> *ibid.*, p.17.